

## 第64回岡山県美容技術コンクール 競技要綱

### 【花嫁着付競技の部】(ボディ使用)

☆ 日 時 令和6年6月17日(月)  
選手受付 8:10~9:00  
※時間厳守(遅れると受付ができない場合があります)

☆ 会 場 岡山市中区門田本町4丁目1番16号  
岡山国際ホテル

#### ☆ 全競技に関する注意事項

- ①出場者は受付を済ませ必ず9時までに選手控室にて待機すること。
- ②出場取消しについては、特別な事情がない限り、1週間前までに 組合事務所 (Tel 086-222-3221) に連絡のこと。
- ③エントリー料は如何なる理由があろうとも返金できません。
- ④参加賞(Tシャツ)及び、お弁当はありません。
- ⑤各種目、エントリー者数が3名未満の場合、競技種目の除外等の規定を設けています。
- ⑥各種目、エントリー者数が6名未満の場合、優勝賞金の授与はありません。トロフィー及び賞状のみの授与となります。
- ⑦業務の都合上、電話でのお問い合わせ、質問等はお受けできません。ご質問等は、FAX及び、下記アドレスのEメールでお問い合わせ下さい。

<お問い合わせ> FAX: 086-223-7455  
Email: [info@ba-okayama.or.jp](mailto:info@ba-okayama.or.jp)

#### ☆ 全競技に関する禁止事項

- ①選手の服装は、競技に相応しいものとし、上衣は白いもの、下は黒または濃紺のスカートまたはスラックスとし、帽子は禁止する。靴はヒールの低いものとする。
- ②選手は、ガムを噛んだり、口の中に物を入れて出場してはならない。
- ③選手・モデルは控室以外で飲食してはならない。
- ④競技中、選手同士またはモデル・観客と会話等をしてはならない。
- ⑤競技中、用具の貸し借りをしてはならない。
- ⑥競技中、他の選手に迷惑をかけるような言動、及び監視委員の指示に従わない等の行為は、退場を命じることがある。
- ⑦控室は、受付終了後から閉会式終了後まで、監視員以外出入りは禁止です。
- ⑧館内禁煙です。喫煙所以外での喫煙はしないでください。
- ⑨ゴミの持ち帰り、後片付けなど社会人としてのマナーをお守りください。

(1) 出場資格 有資格者

(2) 競技時間 ○衿とじの作業 控室にて作業 …… 25分  
○長襦袢着付までの作業 控室にて作業 …… 20分  
○振袖着付、帯結びの作業 競技ステージにて作業 …… 20分

(3) 競技内容 お色直し振袖(おはしより)着付通常披露宴でのお色直しとして用いられるもの。

- (4) **競技方法** 競技は、「衿とじ」の作業及び「ボディ修正、長襦袢着付」までの作業と「振袖着付、帯結び」の作業に分けて行う。  
長襦袢着付までの作業は監視委員立会いの下に控室等で行い、「振袖着付、帯結び」の作業は競技ステージで行う。

(5) **禁止事項**

- ①長襦袢及び色振袖の衿とじを事前に行うことは認めない。(ただし、長襦袢及び色振袖の衿とじは、大会当日の朝、競技前に監視委員立会いの下で、長襦袢着付までの作業時間20分とは別に25分間で行う。その後、作業しやすいようにたたみ直すこと)
- ②帯に形付けをしたり、帯結びの過程につながる過度のたたみ方をしておくことは認めない。
- ③帯や着物などに糸印をつけておくことは認めない。
- ④極端に完成されたボディ修正用具の使用は認めない。
- ⑤ボディ補整のパットやタオルはとじ付けてあってはいけない。
- ⑥袖の錘用の板紙等の使用は認めない。
- ⑦ものさし類の使用は認めない。
- ⑧競技終了後、選手はボディに一切触れてはならない。
- ⑨助手の使用は一切認めない。(ただし、競技用具の搬出入のために、係員の指示に従って助手を指定した場所まで立ち入りさせることはさしつかえない。)

(6) **制限事項**

- ①帯結びの型については「相生」とする。
- ②前身頃の衿の縫い目と「おはしより」の縫目はそろえること。

(7) **衣裳持込みに際しての禁止事項**

- 振袖
    - ①身幅にアールをつけて胴部を絞った仕立ては認めない。
    - ②比翼(裾)は、つけてある所から、裾ふきまで一切表布にとじてあってはいけない。
    - ③立て棲の比翼は、胴裏につけてある所から、衿つけで表布にとじてあってはいけない。
    - ④袖付にあて布があってはいけない。
  - 長襦袢
    - ①衿は、三河芯に半衿をつけたもの以外は認めない。その他、特別に考案・加工された、特殊な型式のものも認めない。
    - ②衿は白無地とする。
    - ③上下セパレートのもの認めない。
    - ④巡礼衿は認めない。
    - ⑤後衿の力布は、あってはいけない。
  - 帯と抱え帯
    - ①特定のひだの折り癖が強くつけられているものは認めない。
  - 着付小物
    - ①肌着・裾よけは着付教室などで開発した特殊な型式のものは認めない。
- ※競技用具は、大会当日の朝、競技前に監視委員が厳重に点検を行う。

(8) **その他の注意事項**

- ①帯結びに使用するひもは、腰ひも又は何重のゴム仮ひもでもよい。
- ②立矢の帯の中に芯を使用してもよい。(ただし、振袖着付・帯結びの作業時間内(20分)で行うこと)
- ③おはしより芯は使用できない。
- ④ボディに肌着を着せておくこと。
- ⑤ボディの脚の長さを65cm~75cmとする。(百日草ボディ参考)
- ⑥足袋で審査を行う。事前に足袋はコットンなどを入れて形を整えてボディの台の上付けておくこと。
- ⑦アイロンは使用できない。
- ⑧控室に電源の設備はない。
- ⑨競技ステージへのボディの搬入は選手の手持ちとする。着付用具他は衣装箱に入れて助手に持たせ係員の指示に従って搬入する。この時の助手は必ず入場券を購入しなければならない。

- ⑩競技ステージへボディ搬入後、競技前にチェック時間を設ける。
- ⑪競技終了後、選手は直ちに用具その他のものを持って退場しなければならない。
- ⑫審査中のボディのポーズは図のとおりとする。扇子はボディの為、持たせません。〔資料図参照〕

**(9) 競技用具の準備（選手が準備するもの）**

- (a) ①色振袖 ②丸帯 ③草履 ④長襦袢（長襦袢の衿は三河芯にして、三河芯幅に半衿をつけたもの） ⑤五点セット（帯じめ、帯あげ、抱え帯、扇子、はこせこ）
- ⑥衣装敷（並判） ⑦舞台競技用衣裳箱（氏名は裏に記入）
- (b) 小物付属品「足袋、肌襦袢、裾よけ又はワンピース型肌着、腰ひも、仮ひも、伊達巻き（2本）、ボディ修正用具（綿花、タオル、さらし又はガーゼ）、帯枕、帯板、クリップ、衿芯（長襦袢及び着物の衿用として奉書紙（35cm×25cm以上、55cm×40cm以内）を使用のこと。ただし、折ってあってはならない。）」
- (c) 裁縫用具一式

**(10) 審査 技術性・調和性などを総合して審査を行う。**

